

保 育 奉 公

大 東 亞 戰 爭 必 勝 完 遂

明治天皇御製

思ふ事おもふがまゝに言ひいつるをさな心やまことなるらん

言葉ご心、口ご腹ごが、またしても一つでないごは、おごの醜惡でもあり悲哀でもある。それがいつも一つでさへあつたら、世の中がごの位單純になり、あつさりするであらう。しかも、なか／＼さうならぬのが人の心でもあり、さうさせぬのが世の中でもある。いつまでもごごのやうであり得たらごいふ、あの自らを嘆く聲に、おごの悲哀が籠つてゐる。

おもふがまゝに言ひでないのは醜い。おもふがまゝに言ひでられないのは悲しい。それがおごなであり、そのごちらもないのがをさなごである。まごごは、貴いご共に幸である。をさなごは、屢々おごの理想であり師である。少くも、まごごの持主ごとしての貴さご幸ごに於て。

そのをさなごご常に共にあるわれらである。與ふるに材がないでもない。教ふるに道がないでもない。指導に方法がないでもなく、誘導に工夫がないでもない。ただ、彼等のまごごに觸るゝに、果して常にまごごなるか。心の伴はぬ言葉、心の通りでない言葉、敢ていつわるごではないが、ほんたうにまごごでないごごはないか。便宜の言葉、手段の言葉の多くして、まごごの言葉の、なんご少いごごか。

御製は、をさなごのまごごを、たゞそのまゝにすら／＼詠じさせ給ふてある。御製ご同じ詠嘆を以てをさなごを見るごごは、われらをさなごご共にあるものに恵まれる機會でないごごもない。たゞ、御製を拜しては、はつご自らを省みさせられる。をさなごに就ては、なく、をさなごに於て強くわれを省みさせられるのである。

(倉橋惣三謹識)